

学校名	山形市立鈴川小学校 山形市鈴川町三丁目7番10号 TEL 622-2158 FAX 633-9571	校長	佐藤 友宏
		研究主任	山口 紀之
研究主題	他者とのかかわりから学びを深める子ども（3年次） ～算数科の授業づくりを通して～		
研究主題設定の理由	<p>本校では、学校教育目標として「豊かな心を持ち、自ら学ぶ意欲と実践力のある子どもを育てる。」を掲げ、その具現化を目指し、個々の児童の実態に応じた指導、支援を心がけながら日々の教育活動を行っている。</p> <p>本校の児童は、素直でまじめであり、よく働き、優しく聞き分けが良いという反面、人や物と進んでかかわることが少なく、学習や生活において受け身であることが多い。また、表現や主張が苦手な自分の考えを持っていても積極的に伝えられないという課題もある。</p> <p>今年度本校では昨年度までの研究をもとに、さらに、より良い授業を創造、発信し、教師自らの授業力を高めるとともに、新学習指導要領において重点とされている「育成すべき能力・資質」をはぐくむことを目指す。そのために、習得・活用・探求という学習プロセスの中で、知識・技能を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図り、学びに向かう力を培っていきたいと考えている。</p> <p>教科については子ども自らが主体的にかかわることができるように、算数科に絞って取り組むことにした。</p> <p>かかわりながら学ぶ場面や思考場面の充実、及び、学んだことを生活に生かしたり、応用したりできる力を身につけさせるための、単元構成の工夫や課題設定のあり方、グループ活動のあり方、学習の振り返りの場面の工夫を大切にしながら教育活動を実践し、子ども自身がかわりの中で学びを深める姿を目指し、この研究主題を設定した。</p>		
研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的にかかわりを持ち、自ら学ぶ意欲を持つ子どもを育てる。 ○ かかわりの中で、自分の思いや考えを深める子どもを育てる。 ○ 学んだことを活用して課題を解決しようとする子どもを育てる。 		
研究の内容	<p>(1) 単元づくりや授業づくりの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 算数科の学習、学年の発達段階に応じた「子どもにつけたい力」を明確にした指導案作り ② かかわりながら学びを深める単元構成の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動、思考場面充実の工夫 ・グループ活動のあり方 ・振り返りの場面の工夫 <p>(2) 授業力を高めるための研究と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づいた授業の実践 ・研究成果を他教科へつなげていくための先進校の取組に関する研修 		
研究の方法	<p>① 校内研究の主題に迫るために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題について全体で話し合い、学年の子どもの実態に応じてこのような姿に育てたいというイメージを持つ。 ・研究紀要に授業研究の指導案、授業記録、研究のまとめを集録する。 <p>② 授業力向上のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大研・中研・小研を行い、互いの授業を見合って学ぶ。 ・大研は学年部1授業、低・中・高の計3授業。 <p>事後研では、以下の2つの視点について気づいたことなどを話し合う。</p> <p>視点1として、「子どもが何を学んだのか」 ←子どもの振り返り、成就感、効力感、次時への展望</p> <p>視点2として、「適切な教師のコーディネート力」 ←教師の立ち位置、意図的指名、学ぶ必要感のある単元設定、教師の出や待ち、発言量の吟味、交流の方法など</p>		
研究の計画	<p>4～6月〔研究体制・計画立案〕 研究の構想・内容の検討、研究の組織づくり、研究授業の計画</p> <p>7～12月〔授業を通しての検証、実践の積み上げ〕 大研・小研を通して</p> <p>1～3月〔研究のまとめ・次年度の構想〕 成果と課題の確認、実践記録集のまとめ、次年度の研究内容の検討</p>		

